

受賞者決定! ~生徒たちが考えた「地球に生きる」こととは~

全国の中学生・高校生を対象に毎年実施されている本コンテスト。今年度は、「地球と生きる」をテーマに、全国から中学生51,493作品、高校生23,517作品の応募が集まりました。北陸地域からは、中学生1,034作品、高校生419作品の応募があり、個人賞では13名、学校賞では12校が受賞しました。



表彰式は、JICA草の根技術協力事業実施団体の特定非営利活動法人「世界の砂漠を緑で包む会」が実施する新春緑化講演会との併催で、「シンポジウム～地球と生きる～」として実施しました。



受賞者代表



受賞者を代表して、寺脇恭平さん(下写真)と村田真衣子さん(左写真)が作品を朗読。寺脇さんの「今自分が出来ることとして、身近な人に世界の現状を伝えていきたい」、村田さんの「世界の人間が同じであるという事実」に気がついた時、初めて真の国際協力ができる」との言葉に、会場からは大きな拍手が送られました。



中国・内モンゴル出身の李彩霞さんによる二胡演奏や板橋興宗禅師による講演が行われました。



北陸地域の受賞者

個人賞	学校賞
入選	中学校の部
馬場 梨彩子 富山市立南部中学校	富山市立大沢野中学校
独立行政法人国際協力機構北陸支部 支部長賞	高岡市立伏木中学校
山下 渚 氷見市立北部中学校	富山市立山室中学校
板谷 友紀子 七尾市立東部中学校	魚津市立西部中学校
坪井 美穂 坂井市立春江中学校	高岡市立高岡西部中学校
佳作	氷見市立灘浦中学校
浦 碧子 金沢市立清泉中学校	金沢市立森本中学校
加茂 絢弓 越前市武生第二中学校	福井市清水中学校
社団法人 青年海外協力協会 会長賞	越前市武生第二中学校
寺脇 恭平 金沢市立森本中学校	高校の部
独立行政法人国際協力機構北陸支部 支部長賞	富山県立伏木高等学校
北村 史沙子 高岡第一高等学校	高岡第一高等学校
村田 真衣子 石川県立金沢二水高等学校	福井県立武生東高等学校
吉岡 野絵 福井県立武生東高等学校	
佳作	
松田 眸 富山県立高岡高等学校	
後藤 宏美 石川県立金沢桜丘高等学校	
藤田 早紀 福井県立金津高等学校	

受賞作品はJICA北陸のホームページからご覧いただけます。また作品集も発行しておりますので、ご希望の方はご連絡下さい(連絡先詳細は最後のページに記載)。



~JICAボランティアの活動は泣き笑い~

海外で生活しながら、文化や習慣が違う人たちと一緒に仕事をする…それを聞いただけで、いろいろな苦労があるのだろうと想像することはそんなに難しいことではないでしょう。今回は、JICAボランティア経験者からよく聞く現地でのほろ苦い?失敗と、そこから学んだJICAボランティア的処世術をご紹介します!ボランティアの活動は試行錯誤の繰り返し。経験者ならきっと「あるある!」と思うはず。

日本から来ました!とは言ったもの… ~異国での生活編~

空手が出来るかと聞かれて、なめられてはいけないと「出来るさ!」と答えていたら、本気で教えてほしいと頼まれた…(。o。)

現地では数少ない日本人として、日本についていろいろな質問や要求をされることがあります。日本の歌や日本語を教えてほしいといわれるくらいなら何とかできますが、日本人というだけで誰でも空手ができると思い込む人もいます。日本人なんだから日本のことは何でも知っているだろうと思われている…そんな時、自分が日本人について意外に知らないことが多いということに気づかされるのです。何でもできる必要はありませんが、何か自分らしく日本を紹介できるよう準備しておくことで現地では利用価値大です。



活動の極意は、やるよりやらせよ!? ~活動編~

海外ボランティア⇒技術移転⇒自分が知っていること・やってきたことを教える⇒現地の人の技術向上!
そんな図式を思い描き、手取り足取りやるつもりが、いつの間にか自分だけが動いていて、同僚達は休んでいる…そう、自分はうまく使われていた(; ;)

自分が何事もやってしまっただけでは、何も伝わらない。何も変わらない。同僚には、「ちょっとお願い」の一言を言わせるようにしむけたり、自分は手を出さず、同僚がやり始めるのをじっと待つ!などの工夫をしていた人も多いでしょう。「ボランティアはいつかなくなる」そのことを考えて、伝えたいことを見極め、自分がどう動くかを考えるのが活動の鍵です。



意外な盲点!? 灯台下暗し ~活動編 その②~

グループ派遣^(※)で派遣されたけれど、グループ派遣というものに対する個々の意識が違っていた。そのことを考えずに活動を進めたせいで活動はうまくかみ合わなかった。
※グループ派遣とは同一の配属先に複数のボランティアを派遣し、それぞれの連携・協調により効果を高める派遣形態。

異なる文化を持つ人との交流、異文化を理解することの大切さ…それらについては誰もが想像し、心構えをするものですが、同じ日本人同士であっても考えや意識の違いがあるということをお忘れしてしまうこともあります。周りの人とのコミュニケーションを大切に、お互いを知り、尊敬することは何事においてもまず第一歩です!



市民参加協力(海外)

金城大学からラオスへ、幼児教育の普及を目指して!



今回は、石川県白山市にある金城大学社会福祉学部的小林千恵子教授の活動をご紹介します。小林教授は、2001年の夏にベトナムはビエンチャン市を訪れ、ストリートチルドレンを対象とした野々市ロータリークラブによる医療分野の支援活動に協力しました。その後も、同クラブと共に活動を続け、現在はラオスの農村(ヴィンカム州サイター二郡)を中心とした幼児教育の調査及び普及活動をしています。2008年12月には、小林教授は同僚とともにラオスを訪問し(JICA市民参加協力事業海外プログラム)、農村において幼児教育に関する基礎調査を実施しました。



聞き取り調査中



農村の子どもたち

帰国後、調査団より「首都ビエンチャンを始めとした都市部には多くの幼稚園があるのに対し、今回調査した地域には幼稚園が7村に対し1箇所しかなく、都市部との教育格差が歴然としている。農村に集まった大人たちを対象とした聞き取り調査では、120人中103人が子どもを幼稚園に通わせたいと答えていた」と幼児教育の必要性についての報告がありました。今後、幼児教育の普及プロジェクトを計画するにあたっては「現地に既にある建物、人材、物資を上手に活用し、いかにして村民の参加を促すかが大切。一人でも多くの子ども達が教育を受けることができるようにしたい」と小林教授。今後の教授の活躍から目が離せません!



下段左から5番目が小林教授

仲良きことは〇〇〇かな?…こんなこともあるんです ~番外編~

- いい人だと思って、仲良くしていた現地の男性に本気で告白された。(男性隊員)
- 信頼できると思って家に上げたら物がなくなっていた…(T_T)

人を信用せず疑ってばかりでは何もできませんが、どうやってコミュニケーションをとればいいのか悩んだり、お願いや誘いを断ったりしたら良い関係が築けないのではと思って不安になることもあるかもしれません。しかし、自分の好き嫌いをきちんと伝え、態度をはっきりさせることも時には必要です。その上で信頼できると思った人とは、きっと一緒に良い活動が出来るのではないのでしょうか。思わぬ告白には…(未婚であっても)既婚であるといっておくことも防衛策になると思います(笑)。

注)本文の内容と写真は一切関係ありません。

JICAボランティアの春募集の時期となりました。

この記事を読んで挑戦してみたいと思った方、以前から知っていたけど今なら!と思っている方、どうぞ、説明会にいらしてください!説明会は経験者の話を直接聞ける機会でもありますので、気軽にご参加ください。

日程はHPで➡ JICA北陸 検索